

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和 年 月 日

協議会名: 新城市地域公共交通会議

評価対象事業名: 陸上交通に係わる地域公共交通確保維持事業(地域内フィーダー系統)

協議資料1-2

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C 評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C 評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
豊鉄タクシー株式会社 ちさと線 (地域内フィーダー系統)	千郷地域自治区内区域運行	・希望者へ、乗り継ぎをまとめたマイバス時刻表を作成し配付した ・ちさと線運行区域となる千郷の足の確保検討委員会主導のもと意見交換を定期的に実施した。	A 千郷地域自治区内全域でバスが利用できるようになり、地域住民の移動手段を確保できた。	C ①利用者数 目標3,070人／実績1,122人→達成度36% ・事前予約が利用のハードルになり、利用が伸びていない。	利用のハードルを下げるため、地域検討組織による一緒にちさと線を利用し、お出かけするイベントを実施する。
新城市 塩瀬線 (地域内フィーダー系統)	①大海駅方面1便 ②上島田方面1便 ③上島田方面2便 ④上島田方面3便 ⑤塩瀬布里循環線1便4便 ⑥塩瀬布里循環線2便3便	・希望者へ、乗り継ぎをまとめたマイバス時刻表を作成し配付した ・接続する地域間幹線の時刻変化に合わせたダイヤの変更を行った	A 鳳来北西部地区住民の通学、通院、買い物等の手段として適切に運行できた。他路線との接続もしており、利用者の利便性も確保できた。	C ①利用者数 目標1,930人／実績1,024人→達成度53% ・朝夕は中学生の利用があるが、日中の運行は、定期的な利用者の高齢化により、減少傾向にある。	利用者の少ない時間帯の運行について、地域との意見交換や路線自体の見直しが必要と認識おり、検討を開始する予定である。
新城市 つくであしがる線 (地域内フィーダー系統)	作手地区全域	・地区住民との意見交換を行った ・運行会社・予約受付業務担当者と3者での意見交換を行い、定期的な業務改善に努めた	A 高齢化およびバスが通れない狭小な道路や集落が点在する地域において、移動の足の確保を適切に行うことができた。	A ①利用者数 目標2,397人／実績3,160人→達成度131% ・安定して高齢者や中高校生の通学に利用されており、地区内での通院や買い物等、地区外のバスへの乗り継ぎといった生活に必要な移動手段として利用されている。	作手地区の高校の高校の閉校が決定したことで、作手地域全体でバスに対する要望、見直しの機運が高まっているため、地域と連携し路線見直しや利用促進を検討する。
新城市 鳳来寺山もつくる新城線 (地域内フィーダー系統)	もつくる新城南～鳳来寺山山頂	・希望者へ、乗り継ぎをまとめたマイバス時刻表を作成し配付した ・名古屋圏でのイベントで高速バスとセットの往復企画切符をPRした ・紅葉シーズンには毎日運行した	A 鳳来東部地区住民の移動手段として、また、高速バスと接続し、観光地への移動方法として、運行することができた。	A ①利用者数 目標1,258人／実績2,446人→達成度194% ・高速バスの利用者の増加に伴い、安定した利用者が確保されている。	長久手市での認知度向上のため、長久手市との連携を強化し周知に取り組む。 利用者のニーズを把握し、利便性向上のため、できることから検討する。
新城市 海老連谷線(地域内フィーダー系統)	海老、四谷、連合行政区内	-	地域間幹線系統の維持確保のため、廃止された路線の代替として、運行を開始した。これまでバス停までが遠くバス利用がなかった地域でも利用ができるようになった。	A ①田口新城線への乗り継ぎ利用者数 目標437人／実績523人→達成度119% ・中学生の通学及び地域外からの来訪者によるの景勝地への観光にも利用された。	まだまだ地域全体への周知が進んでいないので、広報やバスマップにより周知を図る。

事業実施と生活交通確保維持改善計画との関連について

協議資料1-3

月 日

協議会名:	新城市地域公共交通会議
評価対象事業名:	地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>新城市地域公共交通計画に則り、公共交通施策を実施します。</p> <p>【市としての将来像】 つながる力 豊かさ開拓 山の湊しんしろ</p> <p>【理念】</p> <p>ひと 地域公共交通を支える“ひと”を育みます ちいき あんしんして住み続けられる“ちいき”の移動手段を確保します まち 活力にあふれる“まち”の公共交通をつくります</p> <p>【基本方針】</p> <p>人が地域が輝き、生涯にわたり健やかで幸せに暮らせるまちを支える 方針1 暮らしに即した地域公共交通をつくる 方針2 大都市圏と地域をつなぐ公共交通をつくる 方針3 持続可能な地域公共交通をつくる</p>